

戦争を学ぶ、命を考える

1 対象学年 中学2年生

2 ねらい

戦後70年余りが過ぎ、戦争を体験した人々も徐々に少なくなっている。そのため、唯一の被爆国である日本人ですらも、戦争への意識も風化し始め、多くの人たちにとっては歴史上の出来事という認識になりつつある。その一方で、世界に目を向ければ、シリアや南スーダンなどの国際紛争、テロ等は後を絶たず、平和が実現されていない現状がある。

生徒は、報道などで、国際紛争があることは知っている。しかし、多くの子どもたちの戦争に対する意識は、「自分の国とは関係ない」「日本が平和だから実感が無い」と身近な問題としてとらえられていない。そのため「戦争」をいかに自分の問題としてとらえさせていくかが大きな課題であると感じる。また、戦争後の人々の生活やその苦しきなどに気付くことのできる場面なども少ないように感じる。

そこで、本実践では、「焼け跡に立つ虹」を通して、この名古屋でも戦争があり、その悲惨さを改めてとらえさせていきたい。また、国境なき医師団の貫戸朋子さんの実際にあったエピソードを通して、戦争後の悲惨な現状や平和の大切さをとらえさせるとともに、生命の尊さに気付かせていきたい。

3 準備

焼け跡に立つ虹・世界がもし100人の村だったら・PC・プロジェクター（スーダン人道的危機の写真）TV・DVD（貫戸朋子「課外授業ようこそ先輩」の編集VTR、世界がもし100人の村だったら）貫戸朋子氏の資料、ワークシート

4 指導計画（2時間完了）

第1時

時間	学習活動	指導上の留意点
5分	1 過去を知るために「名古屋大空襲」を読む。	○ この地域で実際に戦争の被害があったことをとらえさせる。 ○ 一人ひとりに資料を配付して、一文ずつ読ませる。
5分	2 現在を知るために「世界がもし100人の村だったら」の映像を視聴した後、クイズに答える。	○ 世界の人口が100人の村だった場合の人数を自由に想像させる。 ○ さまざまな人がいることをとらえさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には、67億人いますが、もしそれを100人に縮めると ・男性…50人 女性…50人 ・キリスト教…33人 イスラム教…19人 ・ヒンドゥー教…13人 仏教…6人 ・信じていない&その他の神様…16人 ・空襲や襲撃や地雷による殺戮や武装集団の拉致におびえている人…20人 ・世界の子どもがもし100人としたら戦火の中で暮らしているのは…9人 ・戦火で命を奪われる市民100人のうち女や子どもは…80人 	
5分	3 「世界がもし100人の村だったら」の続きは視聴し、穴埋めに当てはまる言葉を考える。	○ 生徒を指名して発表させる。 ○ 何人か発表させたところで課題を伝える。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>いろいろな人がいるこの村では「○○○○○○○○」こと「○○○○○○○○」こと そして何よりそういうことを知ることがとても大切です。</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>学習課題：何を知ることが大切なのか考えよう。</p> </div>		
5分	<p>4 1枚の地図を見せ、何を表している地図か考える。</p>  <p style="text-align: right; margin-right: 10px;">89カ国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の紛争地図を見せ、現代でも多くの紛争があることを知らせる。
10分	<p>5 紛争地域で食料や衣料を提供している団体である「国境なき医師団」や貫戸朋子氏の紹介をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクリーンで、スーダン人道支援の写真を投影し、説明する。 ○ 日本人第1号の派遣医師として、貫戸朋子氏がボスニアに派遣されたことなどを伝える。
10分	<p>6 ビデオを視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントを配付する。また、視聴後、机を移動するので、机上は資料・ワークシート・筆記用具だけにさせる。
10分	<p>7 自分の行動とその理由を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導で書いている様子を観察する。なかなか書けない生徒には、場面を想像し、自分ならばどうするか考えるよう伝える。

第2時

時 間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
5分	<p>1 前時の復習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がどのような意見をもったのかを確認させる。
20分	<p>2 それぞれの立場の考えを発表して、その後、話し合いを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立場をはっきりさせ、相談しやすい雰囲気を作るために、似た意見をもった生徒同士となる、教室形態とする ○ 話し合いでは、一つの意見に対して、反対の意見を組み合わせるように進める。
10分	<p>3 話し合いを終了し、実際に貫戸朋子氏がとった行動を伝え、感想を書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間があれば、途中で中断し、考えが変わった生徒の場所を移動させ、その考えを生かして、さらに討論を進める。 ○ 時間を見て、意見交流を終了する。
10分	<p>4 前時の学習課題をもう一度考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 悩んでいる生徒には、国境なき医師団にはさまざまな人種や状況に置かれた人々がいる中で、貫戸さんはどのような心がけで働いていたのか考えさせる。
5分	<p>5 教師の話を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に「もし世界が100人の村だったら」では、どんな言葉が書かれているかを伝える。

5 実践のまとめ

第一時

授業の導入で「名古屋には空襲があったか」という質問をした。その結果 36 人中 15 人の生徒が「空襲があった」21 人の生徒が「なかった」に挙手した。そこで「焼け跡に立つ虹」の「名古屋大空襲」を配付した。この題名を見た時、生徒たちは名古屋で空襲があったということが理解できたようだった。さらに、読み終えた後に「自分たちが住んでいるこの場所に空襲があったなんて知らなかった」「戦争って怖いし、悲しい」といった声が挙がった。空襲が自分たちの住む名古屋であったという事実を知らない生徒にとって、「名古屋大空襲」という資料を用いたことは、有効であると考ええる。また、空襲の様子が鮮明に描かれており、恐ろしいものであったということを理解させるためにも良い資料であると考ええる。

次に、今も戦争によって苦しんでいる人がいるという現状を知らせるとともに、興味をもって授業に取り組むことを目的として、世界の人口を 100 人の村として、戦争に関わるクイズを行った。クイズ形式を取り入れたことで、子どもたちは答えを当てようと意欲的に発言した。「子どもたちは空襲や襲撃や地雷による殺戮や武装集団の拉致におびえている人」や「世界の子どものもし 100 人としたら戦火の中で暮らしている数」では、多くの生徒が予想した数よりも少なかった。そのため「意外に多くないんだ」「そんなにいないんだ」といった声が聞こえてきた。しかし、最後の問いで「戦火で命を奪われる市民 100 人のうち女性や子どもの数」の予想ではほとんどの生徒が「80 人」より少ない数を予想していたため、正解を発表すると、「えっ、すごい。そんなにたくさんいるの」「戦火にいる女の人や子どもがかわいそう」といった声が聞こえてきた。その後、「もしも世界が 100 人の村だったら」の続きを視聴させた。他にもさまざまな事実を見るにつれ、日本がどれほど恵まれているのか、世界がどれほど悲惨な状況であるかを把握したようであった。そして、最後に出てくる「いろいろな人がいるこの村では『〇〇〇〇〇〇』こと『〇〇〇〇〇〇〇』こと、そして何よりそういうことを知ることがとても大切です」に入る言葉はどんな言葉を自分たちで考えていくことを伝えた。



写真1 自分の考えを書いている様子

次に、「国境なき医師団」や貫戸朋子氏の紹介をした。本学級の生徒は、悲惨な状況で過ごす子ども、貫戸朋子氏が「酸素ボンベを切るか切らないか」葛藤する様子を真剣に視聴した。そして、視聴後に「自分だったら酸素ボンベを切るか切らないか」を考え、授業を終えた。(写真1)

切るべき

- その子のために酸素を全部使ったら、その他の治療をしてもらいたい人にあてる酸素がなくなるからです。
- 男の子にはかわいそうだけど、酸素を与えても変わりなく苦しい顔をしていたからもう助からないと思ったからです。酸素を必要としている人がまだまだいると思います。だから、その人のためにとっておくべきだと思います。

切るべきでない

- 助からないと言われても、もしかしたら丸ごと一本酸素ボンベを使うことによって生き返るかもしれない。医者としてのプライドもあると思います。それに、ひとりの大切な子どもの命がなくなってしまうから、やっぱり切るべきではないと思います。
- もし、自分がこの子どもだったら、自分のために酸素ボンベを使ってほしいと思います。そして、もし自分が貫戸さんだったら、酸素を切ると絶対後悔すると思うからです。

第2時

第2時は前時の授業を受けて「酸素ポンペを切るか、切らないか」について、自分の意見を発表し、話し合い活動を行った。たくさんの生徒が自分の意見を発表する様子が見られた。これは、前時に自分の考えを記述することができたためであると考えられる。また、話し合いの場面では次のような話し合いが見られた。(資料2)

生徒A：切っておけば他の人が助かるというけど、切らなかつたらその子の命が助かるかもしれません。酸素を切って、5歳の子を放っておくことをできないと思います。

生徒B：切るべきです。一人だけ助けて他の人たちが助からないというのはいけないと思うので、いろいろな人の命を助けた方がいいと思いました。

生徒C：他の患者さんの命もあるし、その子だけの命を助けるのではなくて、世界中の人たちを助けたほうがいいと思います。だから、その子ひとりだけに酸素ポンペを全部与えたり、ほかの人たちの気持ちを考えて、その子だけに生きてほしいというわけにいかないと思います。その子にも生きてほしいと思っているけど、もう生きられないかもしれないから切るべきだと思います。

資料2 話し合われた内容の一部



写真2 学級内での話し合いの様子

全体として「切るべき」立場からは「切っておけば他の人が助かるかもしれない」という意見が出された。「切るべきでない」立場からは「薬とか酸素ポンペを送ってくるかもしれない」「命があるから助けないといけない」「子どもが助かるかもしれない」という三つの意見が出された。これらの意見をめぐって全体討論が行われた。(写真2)

話し合いを通して、治療を待っている他の人や子どもの母親への気持ちを考えたり、酸素ポンペは5歳の子供にとっても、治療を待っている人にとっても同じように大切だということに気付いたりすることができた。その後、貫戸さんが実際にとった行動を紹介した。「切るべき」立場を選んだ生徒も「切るべきでない」立場を選んだ生徒も納得した様子であった。

話し合いが一段落したところで、もう一度、学習課題を提示し、自分の考えを記入した。(資料3)多くの生徒が「思いやり」や「協力」などの言葉を使って表現する中で、「命」という言葉を使って表現する生徒も見られた。普段の学校生活の中で、「思いやり」や「協力」などの言葉は多く使っているため、子どもたちに浸透しているようである。しかし、

いろいろな人がいるこの村では
「人々を助けること」こと 「誰でも大切にすること」こと
そして何よりそういうことをすることがとても大切です

いろいろな人がいるこの村では
「命がない人がいる」こと 「救う方法がある」こと
そして何よりそういうことをすることがとても大切です

資料3 学習課題に対する生徒の考えた答え

「命」という言葉についてはそれほど多く使うことはない。そのため、この「命」という言葉は本実践の一つの成果であるのではないかと考える。その後、最後に本実践の感想を書かせて授業を終えた。(資料4)

自分が住んでいる環境はともめがまわっていて、
自分が住んでいない環境にはめがまわっていない所
がある、それをよく考えることが大切だと思いました。
自分が何ができるか将来に向けて考えること

授業を通して、気付いたこと、感じたことを書いてみた。
人の命はとも大切なものなんだと改め気付いた。
命についての判断をしなくてはならないとき、自分が正しい
判断ができるかどうかはわからない。僕は人の命はできる
だけ守りたいなと思う。命を大切にすることが平和への
第一歩かなと思う。

資料4 本実践を通しての感想

6 成果と課題

【成果】

実践の最後に、アンケートを行い、実践前後での変化を調べた。(資料5)「世界にはさまざまな環境や状況で暮らしている人がいることが理解できたか」という問いに対して、「かなりできた」と答えた生徒が61%、「まあまあできた」と答えた生徒が39%となり、全ての生徒が肯定的な回答をした。また、「平和の大切さを理解することができたか」の問いに対しては、「かなりできた」と答えた生徒が64%、「まあまあできた」と答えた生徒が32%であり、全体の96%の生徒が肯定的に答えた。

生徒の授業の様子や、感想等から、本実践の成果を以下にまとめた。

- 世界には、日本のような恵まれた国だけでなく、悲惨な状況の中で暮らしている人がいるということを理解させるのに有効であった。(実践後のアンケートから)
- 本実践は生徒にとって平和の大切さを理解させるために有効であった。(実践後のアンケートから)
- 貫戸朋子さんの実話を通して、自分ならどうするか考えることは、命の大切さに気づかせるために効果があった。

(生徒の感想から)

【課題】

- 生徒の意識の継続させるために引き続き平和について考えさせる機会を作るべきである。そのための時間をどのように作っていくか検討する必要がある。

(生徒の様子から)

- 海外で起こっている戦争を、切実感をもってとらえるための教材研究の工夫が必要である。

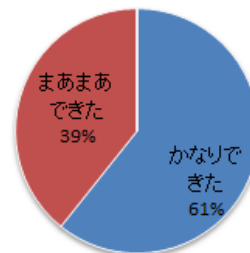
(実践後のアンケートから)

7 実践のまとめ

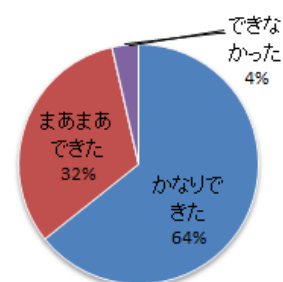
日本の過去に戦争があったこと、今、この瞬間で起こっている戦争があること、その場所で必死に一つの命を救うための活動をしている人がいることを知ってもらうため、この平和実践を行った。実践後のアンケートでわかるように、多くの生徒が世界のさまざまな現状、平和の大切さを理解することができたようであった。また、ある生徒は「先生、昨日家でも貫戸朋子さんの体験について話し合ったよ」といった声が聞こえてきた。その声を聞いたとき、このような命の大切さを学ぶ実践、平和に関する実践を多く行っていく必要があると感じた。

今後も引き続き、平和について考えさせる機会をもつことによって、平和な世界を実現するために考え、行動していこうという思いを育てていきたい。

世界にはさまざまな環境や状況で暮らしている人がいることが理解できたか



平和の大切さを理解することができたか



資料5 実践後のアンケート

戦争を学ぶ、命を考える

2年 組 番

1 クイズ

Q1 世界には、約70億人いますが、もしもそれを100人の村に縮めるとどうなるでしょうか
男女だったら？

男子 _____ 人 女子 _____ 人

宗教だったら？

キリスト教 _____ 人 イスラム教 _____ 人 ヒンドゥー教 _____ 人 仏教 _____ 人

信じていない&その他の神様 _____ 人

Q2 もしあなたが空爆や襲撃や地雷による殺戮におびえていなければそうでない _____ 人より恵まれています。

Q3 世界の子どもがもし100人だとしたら戦火の中で暮らしているのは _____ 人いる。

Q4 戦争で命を奪われる市民100人のうち _____ 人は女や子どももある。



2 考えるテーマはこれだ！！

予想は…

いろいろな人がいるこの村では

「

」こと 「

」こと

そして何よりそういうことをすることがとても大切です

3 自分がもし貫戸朋子さんだったらどうしますか？

1 酸素を（ 切る ・ 切らない ）

.....

.....

.....

.....



メモ

4 貫戸朋子さんが実際に行った「行為」や「思い」について率直な感想を書こう。



5 学習課題を振り返ろう

学習課題：何を知ることが大切なのか考えよう。

いろいろな人がいるこの村では
「○○○○○○○○○○○○○○○○」こと 「○○○○○○○○○○○○○○○○」こと
そして何よりそういうことを知ることがとても大切です



自分なりの答えは…

いろいろな人がいるこの村では
「 _____ 」こと 「 _____ 」こと
そして何よりそういうことをすることがとても大切です

- 【振り返り】(4 かなりできた 3 まあできた 2 あまりできなかった 1できなかった)**
- あなたは今日の活動で、自分の考えを話すことができましたか。 (4・3・2・1)
 - あなたは、世界には様々な人がいることを理解できましたか。 (4・3・2・1)
 - あなたは、今日の授業で平和の大切さを理解することができましたか。 (4・3・2・1)

授業を通して、気付いたこと、感じたことを書いてください。

